

第 104 回 理事会・拡大執行委員会 議事録

- 1 開催年月日及び時刻 2023 年 12 月 20 日 (水) 13:00-17:30
- 2 開催場所 東京都文京区本郷七丁目 2 番 2 号 当法人事務所会議室
- 3 出席理事名 (総理事数 20 名) 山中 宏二(理事長/人材推薦委員会委員長)、加藤 忠史(副理事長)、合田 裕紀子(副理事長/国際連携委員会委員長)、花川 隆(総務理事/倫理委員会委員長)、村山 正宜(会計理事)、田中 謙二(人財育成・他学会連携担当理事)、磯村 宜和、岡部 繁男(第 47 回大会長)、岡本 仁、久保 郁、小林 和人(第 46 回大会長)、高橋 良輔、林 康紀(脳科学辞典編集委員会委員長)、藤山 文乃(第 48 回大会長)、宮田 麻理子(生物科学連合担当委員会委員長)、池田(村松) 里衣子(神経科学ニュース編集委員会委員長)、柚崎 通介(法人化推進委員会委員長)、渡部 文子(ダイバーシティ対応委員会委員長)
(出席理事数: 18 名、全理事は Web 会議システムにより出席)
- 4 議長 山中 宏二
- 5 出席監事名 (総監事数 2 名) 富田 泰輔(出席監事数: 1 名)
- 6 委員長等出席者 國松 淳(理事長補佐/JNS 創立 50 周年記念行事 WG 委員長)、吉本 潤一郎(理事長補佐/情報基盤整備委員会委員長)、大塚 稔久(大会委員会委員長)、奥村 哲(ブレインビー委員会委員長)、掛川 涉(ホームページ委員会委員長)、竹村 文(動物実験委員会委員長)、Thomas J. McHugh (NSR 委員会委員長/将来計画委員会 機関誌契約更新 WG 委員長)、尾藤 晴彦(将来計画委員会 日中韓 WG 委員長)、松田 哲也(アドボカシー委員会委員長/利益相反委員会委員長)、松元 健二(アウトリーチ委員会委員長/産学連携推進委員会委員長)、宮川 剛(将来計画委員会委員長)
- 7 事務局等出席者 江口 麻耶、窪寺 明子、三瓶 あゆ子、地主 志保、吉田 優子
- 8 欠席者等 平井 宏和(理事)、柳沢 正史(理事)、後藤 由紀(監事)、勝野 雅央(奨励賞選考委員会委員長/学術多様性委員会委員長)
- 9 報告事項
 - 第 1 号議案 総務報告
 - 第 2 号議案 第 46 回 (2023 年) 大会 終了報告
 - 第 3 号議案 第 47 回 (2024 年) 大会 準備報告
 - 第 4 号議案 第 48 回 (2025 年) 大会 準備報告
 - 第 5 号議案 JNS 創立 50 周年記念行事 WG 準備報告
 - 第 6 号議案 Neuroscience Research 報告
 - 第 7 号議案 奨励賞選考委員会報告
 - 第 8 号議案 アルトマン賞報告

第 9 号議案	法人化推進委員会報告
審議事項	
第 1 号議案	開催・協力体制に関する指針の改定について
第 2 号議案	会計に関する件
第 3 号議案	日本神経科学大会について討議事項
第 4 号議案	奨励賞規程の改訂
第 5 号議案	時実利彦記念神経科学優秀博士研究賞規定の改定
第 6 号議案	Neuroscience Research 契約更改／機関誌の将来計画

各委員会・WG の活動報告

第 1 号議案	人材推薦委員会報告
第 2 号議案	将来計画委員会報告
第 3 号議案	将来計画委員会 機関誌契約更新 WG 報告
第 4 号議案	将来計画委員会 日中韓 WG 報告
第 5 号議案	人財育成 WG 報告
第 6 号議案	大会委員会報告
第 7 号議案	国際連携委員会報告
第 8 号議案	情報基盤整備委員会報告
第 9 号議案	神経科学ニュース編集委員会報告
第 10 号議案	ホームページ委員会報告
第 11 号議案	アウトリーチ委員会報告
第 12 号議案	産学連携委員会報告
第 13 号議案	アドボカシー委員会報告
第 14 号議案	利益相反委員会報告
第 15 号議案	脳科学辞典編集委員会報告
第 16 号議案	学術多様性委員会報告
第 17 号議案	ダイバーシティ対応委員会報告
第 18 号議案	倫理委員会報告
第 19 号議案	動物実験委員会報告
第 20 号議案	ブレインビー委員会報告
第 21 号議案	生物科学連合担当委員会報告
第 22 号議案	脳科学関連学会連合担当委員会報告

10 議事の経過の要領及び結果

代表理事山中宏二は、定刻に議長席につき、Web 回線及び Web 会議用装置からなる Web 会議システムを用いて本理事会を開催し、開会を宣し、上記のとおり定足数にたる理事の出席があったので、本理事会は適法に成立した旨を述べた。また、WEB 会議システムにより、出席者の音声が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態であることを確認し、議案の審議に入った。

【報告事項】

第1号議案 総務報告

花川隆総務理事から、会員構成や会員数の推移、協賛後援名義に関する報告があった。一般社団法人化の際、研究分野の名称がパネルからドメインに変更になったが、まだドメインを登録していない会員が多くいることがわかったため、来年行われる選挙に向けドメインの登録を促していく方針が述べられた（資料 A, B 参照）。また、SfN2023 の会期中に行われた SfN とのハイレベル協議について報告があった。

第2号議案 第46回（2023年）大会 終了報告

小林和人大会長より、第46回大会（2023年仙台）の終了報告と収支決算報告が行われた。参加者数や演題数はコロナ前まで復活してきていることなどが報告された。収支面では、黒字で終えることができた他、学会本体の活動についても大会予算でサポートすることにより学会本体会計に貢献できた旨の報告があった。

第3号議案 第47回（2024年）大会 準備報告

岡部繁男大会長より、NEURO2024（第47回大会福岡）の準備状況の報告があった。開催形式は主に現地開催とし、発表者の希望によってはオンライン講演を受け入れる方針が示された。その他、全シンポジウムが確定したとの報告がなされた。

第4号議案 第48回（2025年）大会 準備報告

藤山文乃大会長より、第48回大会（2025年新潟）の準備状況が報告された。組織体制、大会運営業者が決定し、プレナリーレクチャーや特別講演なども一部内諾済みである旨の報告があった。

第5号議案 JNS 創立50周年記念行事 WG 準備報告

JNS 創立50周年記念行事ワーキンググループの國松淳委員長より、準備状況の報告があった。本学会は2024年に設立50周年の節目を迎えることから、これを記念したイベントを企画・実施するための案が提示された。

第6号議案 Neuroscience Research 報告

Thomas J. McHugh 編集主幹より、Neuroscience Research に関する報告が行われた。2023年に投稿された506報の査読審査実績および特集号発行実績と、2024年以降の特集号の発行予定等について説明があった。その他、2024年以降の活動計画などが示された。

第7号議案 奨励賞選考委員会報告

奨励賞選考委員会の勝野委員長は欠席であったため、藤山前委員長より、選考結果の報告があった。13名の候補者（うち女性3名、外国籍2名）の中から、選考方針について慎重に確認のうえ、受賞候補者5名（うち女性1名）が選出されたことが述べられた。また、審査において議論された点や今後の課題、次期選考委員長（名古屋大学・上川内あづさ教授）等についても説明があった。

第8号議案 アルトマン賞報告

花川総務理事より、ジョセフ・アルトマン記念発達神経科学賞に関する報告があった。2023年の受賞者に対し授与式と夕食会を開催したこと、現在2024年の受賞候補者を募集中であることが報告された他、今後のスケジュールなどが述べられた。

第9号議案 法人化推進委員会報告

法人化推進委員会の柚崎通介委員長より、一般社団法人化への移行がほぼ完了した旨の報告が行わ

れた。今後は公益社団法人への移行を目指した準備を進めるという方針が示された。

【審議事項】

第1号議案 開催・協力体制に関する指針の改定について

花川総務理事から、これまでの「主催」「共催」「協賛」「後援」に関する指針を改訂し、「開催・協力体制に関する指針」としたい旨を述べ、議場に諮ったところ全員一致を以って可決承認した。また、本学会が毎年継続して後援・協賛している実績のあるイベントをあらかじめ理事会で一括承認することで、今後は事務局が代理で承認回答できるものとする案についても全員一致を以って可決承認した。

第2号議案 会計に関する件

山中前会計理事より、2023年1月～3月の任意団体の学会本体会計、ならびにNSR会計の決算案が示され、いずれも議決権の過半数を以って可決承認した。2022年4月～2023年3月の任意団体の継続的大会会計の決算案についても議決権の過半数を以って可決承認した。また、2023年4月～2024年3月の一般社団法人の学会本体会計は、既に任意団体の理事会で承認はされているものの、一般社団法人の理事会では初出となるため、改めて検討が行われ、議決権の過半数を以って可決承認した。2023年4月～2024年3月の一般社団法人の継続的大会会計予算案についても議決権の過半数を以って可決承認した。これは今後、学会本体会計と合体して表示されるようになる点についての確認が行われた。

第3号議案 日本神経科学大会について討議事項

山中理事長は、第49回大会（2026年）の大会長ならびに第50回大会（2027年）の会場について、第49回大会（2026年）大会長として上口裕之先生（理研CBS）選定したい旨を述べ、議場に諮ったところ全員一致を以って可決承認した。第49回大会（2026年）大会の開催形式は、3学会合同大会（神経化学会、神経回路学会）とし、両学会に打診することを全員一致を以って可決承認した。第50回大会（2027年）大会は、第4回CJK国際会議を併催すること、スペース、費用等を考慮して、幕張メッセを最終候補とすることを全員一致を以って可決承認した。会期は、2027年7月19-23日（準備日を含む）を予定。

第4号議案 奨励賞規程の改訂

奨励賞選考委員会から、藤山前委員長（勝野委員長の代理）より規程改訂の提案があった。規程の文案について、わかりやすく目的に沿ったものとなるよう更なる工夫が必要との意見があり、奨励賞選考委員会にて継続審議することとなった。

第5号議案 時実利彦記念神経科学優秀博士研究賞規定の改定

山中理事長より、時実利彦記念神経科学優秀博士研究賞の規程の改訂について提案があり、全員一致を以って可決承認した。

第6号議案 Neuroscience Research 契約更改／機関誌の将来計画

山中理事長より、NSRの発行に関するElsevierとの契約更改について進捗報告と提案があった。学会誌の今後のあり方、契約内容について多くの質疑が行われた。次回契約期間が3年であり、早急に学会誌の将来像についての考え方の整理が必要である点を共有した。契約内容については原案通り全員一致を以って可決承認した。最終締結前の細部の微修正については機関誌契約更新ワーキング

グループに一任することが全員一致を以って可決承認した。

【各委員会・WGの活動報告】

第1号議案 人材推薦委員会報告

人材推薦委員会の山中委員長から、旧指名委員会を今期より「人材推薦委員会」と改称した旨の報告があった。各種研究助成や賞、各種委員、学会委員等に対して会員の推薦を行う役割を明確にして活動する計画が述べられた。

第2号議案 将来計画委員会報告

将来計画委員会の宮川剛委員長から、今期の目標として、年次大会でランチョン大討論会を実施、機関誌のあり方について議論、大型研究費のあり方について検討、分野横断的イシューについて検討、などが挙げられた。

第3号議案 将来計画委員会 機関誌契約更新WG報告

将来計画委員会の機関誌ワーキンググループの報告は、既にNSR報告などで目標など報告済みのため割愛された。

第4号議案 将来計画委員会 日中韓WG報告

将来計画委員会のCJKワーキンググループの尾藤晴彦先生から、第2回CJK国際会議に関する報告があった他、今後の第3回、第4回の計画が述べられた。

第5号議案 人財育成WG報告

人財育成ワーキンググループの田中謙二委員長は退席中で不在であったため、代わって山中理事長より報告が行われた。今期から新設された委員会であり、人材育成や、若手会員のニーズの吸い上げと学会運営への反映などをミッションとしているとの説明があった。学会の数が多過ぎて、若手への負担が増していることについて、今後、複数の学会に入会している会員に対し、状況や年次大会の合同開催についての意見などをアンケート調査することになった。

第6号議案 大会委員会報告

大会委員会の大塚稔久委員長より、年次大会のスポンサー獲得や、大会の継続性についての検討を予定している旨の報告があった。

第7号議案 国際連携委員会報告

国際連携委員会の合田裕紀子委員長より、各国の神経科学学会や国際組織との連携状況の報告があった。SfNに参加するための旅費支援に多くの応募があったことについて、SfNが一般公募でサポートしている Trainee Professional Development Award への応募を周知するなどの方針が述べられた。

第8号議案 情報基盤整備委員会報告

情報基盤整備委員会の吉本潤一郎委員長から、レンタルサーバの移行作業がほぼ完了した旨の報告があった。今後の計画として、Slackに代わるコミュニケーションツールの検討、学会ホームページの管理保守体制の見直し、次期委員長への引き継ぎなどを予定していることが説明された。

第9号議案 神経科学ニュース編集委員会報告

神経科学ニュース編集委員会の村松里衣子委員長より、神経科学ニュースの安定的な発刊を目標とする他、HTML化も検討する旨が述べられた。また、神経科学ニュースの著作権の所在を明記する必要が生じたことから、ホームページへ記載し、神経科学ニュースについても2023年第4号から明

記されている旨の報告があった。

第 10 号議案 ホームページ委員会報告

ホームページ委員会の掛川渉委員長から、今後も会員に役に立つ情報提供と研究成果発信を目標とする旨が述べられた。理事会からは、現在、本委員会で進めている新企画「神経科学速報」について、SNS の活用をより促進させるためにも、アウトリーチ委員会やブレインビー委員会との連携を強化する提案があった。

第 11 号議案 アウトリーチ委員会報告

アウトリーチ委員会の松元健二委員長からは、市民公開講座「脳科学の達人」が 10 周年となることから、書籍出版などを計画していることなどの報告があった。理事会から、ニューロナビゲータとホームページ委員 SNS との連携を促進してはどうかとの意見があった。

第 12 号議案 産学連携委員会報告

産学連携委員会の松元健二委員長より、NEURO2024 でも産学連携シンポジウムを実施予定であるとの計画が述べられた他、応用脳科学コンソーシアムの資格検定試験の支援を行う目標が示された。

第 13 号議案 アドボカシー委員会報告

アドボカシー委員会の松田哲也委員長から、関係組織と連携し、意見交換しながら、省庁や政界に対して適切に情報提供し、アカデミアからの意見を伝えることができる体制を構築するという目標が示された。

第 14 号議案 利益相反委員会報告

利益相反委員会の松田哲也委員長より、学会の役員や大会関係者等の利益相反を確認する、重大な利益相反状態が生じた場合は指針に基づいて対応する等のミッションなどが示された。

第 15 号議案 脳科学辞典編集委員会報告

脳科学辞典編集委員会の林康則委員長から、執筆されていない用語の完成と、新たな用語の選定を進める、書籍化についての話も進める、などの目標が説明された。

第 16 号議案 学術多様性委員会報告

学術多様性委員会の勝野先生は欠席のため、山中理事長より代わって報告が行われた。今期より、臨床・関連学会連携委員会から改称された旨の説明があった。NEURO2024 においても基礎・臨床連携シンポジウムを実施する予定が述べられた。

第 17 号議案 ダイバーシティ対応委員会報告

ダイバーシティ対応委員会の渡部文子委員長から、男女共同参画学協会連絡会との連携などを担当しつつ、年次大会での関連イベントの開催を行う方針が示された。

第 18 号議案 倫理委員会報告

倫理委員会の花川委員長より、ヒト脳機能の非侵襲的研究の倫理問題などに関する指針（2022 年度改訂）を、脳外科手術など侵襲的手法の活用を含めて加筆し、広くヒト脳機能の神経科学研究に関する指針として改訂することを目指すという目標が説明された。

第 19 号議案 動物実験委員会報告

動物実験委員会の竹村文委員長から、動物実験をとりまく情勢を把握する、動愛法改正への対策に関わる取り組みを行うなどの予定について説明があった。

第 20 号議案 ブレインビー委員会報告

ブレインビー委員会の奥村哲委員長からは、脳科学オリンピックの実施に向けた方針が述べられた。
また、前回の日本大会の実施状況について報告が行われた。

第 21 号議案 生物科学連合担当委員会報告

生物科学連合担当委員会の宮田麻理子委員長より、生科連の活動報告があった。今後も、生科連のアンケート調査等の活動に協力していく方針が示された。

第 22 号議案 脳科学関連学会連合担当委員会報告

脳科学関連学会連合担当委員会については、山中理事長から脳科連の現在の活動報告が行われた他、引き続き各種審議事項や脳科学関連学会連合からの提案に対して学会として対応し、脳科学の発展ならびに普及を通して社会に貢献する目標が述べられた。

Web 会議システムを使用した当該理事会は終始異状なく、議長は、以上をもって本日の議事が終了した旨を述べ閉会を宣した。

上記決議を明確にするため、本議事録を作成し、定款第 41 条の規定に基づき出席理事長及び監事が次に記名押印する。

令和 6 年 5 月 31 日

一般社団法人日本神経科学学会 理事会

理事長（代表理事） 山中 宏二 （法人実印）

監事 富田 泰輔 （認印）

日本神経科学学会会員構成

()内は2022.1.1～12.1入会者

2023年12月1日

会員種別 パネル	正会員		海外正会員		若手会員	海外若手	学生会員		海外学生会員		シニア会員
	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数	会員数	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数
1 分子・細胞神経科学	1,778	(30)	209	(30)	205	43	249	(102)	18	(16)	53
2 システム神経科学	1,300	(20)	173	(18)	177	39	190	(74)	36	(27)	67
3 臨床・病態神経科学	580	(9)	33	(4)	62	9	49	(17)	7	(7)	13
4 その他の神経科学	259	(14)	27	(5)	91	10	114	(48)	15	(17)	1
5 パネル不明	71	(63)	32	(29)	2	0	122	(122)	24	(24)	0
合計	3,988	(136)	474	(86)	537	101	724	(363)	100	(91)	134

会員種別 学術ドメイン	正会員		海外正会員		若手会員	海外若手	学生会員		海外学生会員		シニア会員
	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数	会員数	会員数	入会者数	会員数	入会者数	会員数
A Basic Neuroscience 基礎神経科学	274	(34)	35	(22)	53	13	110	(90)	18	(17)	10
B Systems & Information Neuroscience システム・情報神経科学	111	(15)	15	(7)	22	6	60	(45)	8	(6)	1
C Clinical & Pathological Neuroscience 臨床・病態神経科学	95	(20)	4	(3)	14	2	25	(21)	7	(6)	0
D ドメイン不明	3,508	(67)	420	(54)	448	80	529	(207)	67	(62)	123
合計	3,988	(136)	474	(86)	537	101	724	(363)	100	(91)	134

その他の会員	会員数	入会者数
准会員	0	(0)
賛助会員(1) 複数申込 ※	1	(0)
賛助会員(2) 1口(10万円)	10	(4)
名誉会員	18	(0)

※成茂科学 10口

全会員数	6,087
-------------	--------------

2023.1.1～12.1

■届出退会:248名

	正会員	海外正会員	若手会員	海外若手	学生会員	海外学生	シニア
1 分子・細胞神経科学	47	6	8	1	42	3	1
2 システム神経科学	26	2	2	0	25	1	9
3 臨床・病態神経科学	16	0	2	0	8	0	1
4 その他の神経科学	13	0	5	0	24	0	0
5 パネル不明	0	1	0	0	5	0	0
合計	102	9	17	1	104	4	11

(退会理由) 卒業:104名、研究分野・職種変更:43名、定年退職:30名、退職(定年を除く):24名、逝去:4名、その他:43名

【資料A】

日本神経科学学会会員構成の推移(2016～2023)

年度 会員種別	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2023
基準日	2016/1/1	2017/1/1	2018/1/1	2019/1/1	2020/1/1	2021/1/1	2022/1/1	2023/1/1	2023/12/1
正会員	5,033	4,856	4,591	4,449	4,389	4,247	4,112	4,054	3,988
海外正会員			1	230	339	461	407	451	474
若手会員	166	200	248	239	225	203	366	306	537
海外若手会員			0	18	22	29	36	39	101
学生会員	410	450	539	476	452	422	529	769	724
海外学生会員			0	16	16	11	15	61	100
シニア会員	17	40	73	85	101	89	115	128	134
准会員	182	331	266	121	0	0	0	0	0
賛助会員(1) 複数口(10万円)	2	2	2	1	1	1	1	1	1
賛助会員(2) 10万円	8	8	8	10	9	7	6	6	10
名誉会員	21	22	21	20	18	18	19	18	18
全会員数	5,839	5,909	5,749	5,665	5,572	5,488	5,606	5,833	6,087

【資料B】